

（午前10時30分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番2、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）「おもしろうてやがて悲しき鶺鴒かな」、岐阜の長良川の芭蕉の句ですね。有名な句ですから、皆さんご存じの方、多いんじゃないかと思います。

8月の2日、3日、岐阜に行つてまいりまして、観光でもなかったんですが、せっかくだからと言われまして岐阜長良川の鶺鴒いを見てまいりました。岐阜の市会議員との打ち合わせがちょっと長引きまして、屋形船ではなくて対岸の川岸から、この鶺鴒、鶺鴒いを見たんですが、すばらしかったですね。

ライトアップされた岐阜城、それをバックにかがり火をたいた鶺鴒がずっと上流からやつてまいります。そして、そのときにはちょうどブルームーンが、山合いの低いところに川面を照らす。鶺鴒を巧みに操る鶺鴒匠さんの手綱さばき、そして、それを見守るように数十隻の屋形船がそれをとり囲む。周りの対岸では、旅館が明かりを消しながらそれをじっと見守る。すばらしい1300年以上も続いた伝統漁法です。

この長良川の鶺鴒い、本当にすばらしい岐阜の観光資源を持っているなど、そんな感じがいたしました。

なぜ冒頭このような話をするかといいますと、きょう、岐阜の話も少しいたしますので、今回の私の一般質問の内容、岐阜市議会の皆さんにもお伝えをしております。恐らく、役

所関係の皆さんもご覧になっているはずですが、岐阜の細江市長も、ライブかどうかはわかりませんが、今回の私の一般質問の内容を、注目してご覧をいただいているんじゃないかと思います。

きょうは朝ドラの誘致の話をするんですが、実は、冒頭どうしてこういう話をするかと申し上げますと、前畑秀子さん、晩年ずっと岐阜で過ごされているんですね。そのほとんど、多くの時間を岐阜市で過ごされています。この話を進めていくには、必ずこの岐阜との連携が必要なんですね。

結論から申し上げますと、9月の1日に岐阜市議会の最大会派、自民岐阜をコアメンバーとして、岐阜市議会で「朝ドラ誘致議員連盟」というのが、既に発足して立ち上がっております。有志の議員の皆さんに、どれだけの議員が集まるのか、まだ聞いておりませんが、岐阜市でも間違いなく朝ドラ誘致の組織が立ち上がりまして、橋本市と手を携えて朝ドラ誘致をめざしていこうと、そういう話になっております。

また、各会派の皆さんにもご協力をいただきまして、朝ドラ誘致のメンバーにもなっていていただいておりますので、今週、大阪でBKに行く予定をしております。また、改めまして皆さんにもご連絡を申し上げますので、お時間ありましたら、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

それでは、議長のお許しをいただいておりますので、早速ではございますので一般質問をさせていただきます。

（仮称）前畑秀子物語をNHK連続テレビ小説・朝ドラとして誘致してはどうかと、昨

年の6月議会と今年3月議会でそれぞれ質問をさせていただき、今年6月に朝ドラ誘致実行委員会を立ち上げていただきましたが、これまでの進捗と、これに付随する今後の課題などを伺ってまいります。

まず、小さい項目の一つ目になります。橋本創生総合戦略の中で、「橋本市への新しい人の流れをつくる」という大きな基本目標の中で、観光の振興、観光資源の造成という視点からも、単にテレビ番組の撮影というだけにとどまらない経済効果を期待できるかと思うんですが、この朝ドラ誘致を、当局はどのように橋本創生総合戦略の中で位置付け、また、認識されておられるのか、改めて一つ目の項目として伺いをいたします。

二つ目の項目です。市長が提唱されました民間主導で誘致活動を盛り上げる、その方策として、各団体また一般公募を含め、冒頭申し上げましたように市議会各党派からの有志議員にもご参加をいただき、朝ドラ誘致実行委員会が本格的な活動を開始しているんですが、これまでの主な活動内容と進捗、また誘致組織として今後の課題は何か。さらに方向性を今後どのように考えていらっしゃるのか、委員会を管理監督されている所管担当部署にお伺いしたいと思います。

三つ目の項目になります。今後、誘致活動に向けた連携協力体制を組むことになる岐阜市に対し、今回の朝ドラ誘致活動を大きな機会としてとらえ、誘致活動のみならず、観光や教育などにおいてもさらに交流が進むように、姉妹都市提携を結べるよう岐阜市に積極的に働きかけてはどうかと提案をさせていただきます。

それから最後の項目、四つ目になります。仮に誘致が実現したときのために、ロケ班の受け入れ、撮影現場での支援体制などを円滑に進めるため、フィルムコミッションとして

の役割を担う、「(仮称)朝ドラ誘致室」を早急に設置し、橋本市は万全の体制を整え誘致活動を展開しているとアピールしてはどうかと、提案をさせていただきます。

以上の4項目になります。おもしろうてやがてうれしきご答弁をお願いいたします。

○議長(中本正人君) 5番 坂口君の質問、(仮称)前畑秀子物語、朝ドラ誘致進捗と、今後の課題などを問う、に対する答弁を求めます。

企画部長。

[企画部長(北山茂樹君)登壇]

○企画部長(北山茂樹君) 1点目の、橋本創生総合戦略の中で「(仮称)前畑秀子物語、朝ドラ誘致」をどのように位置付けているのかについてお答えします。

現在策定中である、橋本創生総合戦略の基本目標の一つに、「橋本市への新しい人の流れをつくる」という項目があり、これに続く施策の基本的方向として、移住・定住の促進及び交流人口の増加に重点を置いて取り組むこととしています。

このうち交流人口の増加については、観光の振興、スポーツツーリズム、グリーンツーリズムなどの取り組みを拡充することとしており、議員おただしの朝ドラについては、観光の振興として位置付け、官民が連携して誘致活動を行うことを盛り込んでおり、現在、橋本創生総合戦略審議会に諮っているところです。

朝ドラ誘致については、誘致が実現してロケ地となった場合、観光資源の開発、交流人口の増加など、観光振興に資することはもちろんのこと、活動を通じて、市民の皆さんに橋本市に対する愛着や誇りを持ってもらうことで、市民アイデンティティの醸成につながるものと認識しており、「住んで良かった、住みたくなる橋本市」の創造に資するものと考

えています。市としても、前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会に全面的に協力し、実行委員会と連携して活動を行っていく考えです。

次に、4点目の朝ドラ誘致室の設置についてお答えします。

朝ドラ誘致については、現在、実行委員会を中心に民間主導により取り組んでいただいています。誘致が実現する場合は、市としても万全の受け入れ体制を整える必要があると認識しています。

専門部署の設置については、誘致実現の可能性などの動向を注視しながら、機会を逃すことのないように、適切な時期にプロジェクトとして設置を検討したいと考えています。設置することとなれば、フィルムコミッションの業務を含め、実行委員会など民間と連携して取り組みを進めるように考えています。

あわせて、朝ドラ誘致は橋本市を売り出していく好機でもありますので、シティーセールスの面からも取り組んでいきたいと考えています。

○議長（中本正人君）教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）次に、2点目の、朝ドラ誘致実行委員会の活動内容と進捗、また、実行委員会組織としての今後の課題と方向性をどう認識しているかというおただしにお答えします。

去年、前畑秀子さんの生誕100年を機に盛り上がりを見せましたNHK朝の連続テレビ小説、いわゆる朝ドラ誘致ですが、日本女性初のオリンピックゴールドメダリストで、本市の名誉市民である前畑秀子さんの功績と、努力し続けた偉大さを全国に知らしめるとともに、「ガンバレのまち橋本市」を全国にアピールできる絶好の機会ととらえ、6月8日に、公募委員・推薦委員を交えた第1回前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会を開催しました。

その後、聞き取り調査や資料調査を行う情報部会、広報作成や署名活動を行う広報部会、NHKなどとの折衝を行う外交部会、全体の各部会を統括し事業企画を行う統括部会を設置し、委員の皆さんはそれぞれ意欲的で、当初の目的である朝ドラ誘致に、精力的に取り組んでいただいているところです。

現在、市長を先頭にNHKとも折衝しており、先日も東京本社を訪問し、NHK理事に対し直接依頼を行うとともに、相山女学園や愛知水泳連盟等、名古屋方面での折衝も続けていますが、いかに前畑秀子さんに関する情報を多く提出できるかということが、最大の課題となっています。

本市では、前段でもお答えしたとおり、実行委員会で情報部会を設置し、情報の収集に努めていますが、前畑さんの人生の中で大半を過ごした名古屋市、岐阜市での情報量や内容が、朝ドラ誘致の成功の鍵を握っています。

このことから、実行委員会に活動委託を行っていますが、市においても、より一層のサポート体制を築くことで目的成就を果たせると考えています。

次に、3点目の、岐阜市との交流に関してですが、前畑さんが結婚後、長きにわたりお住まいになられた縁とともに、現在、織田信長公岐阜城入城450年に沸く岐阜市とは、信長の嫡孫織田秀信公（幼名・三法師）の終えんの地と言われる橋本市と深い縁で結ばれています。

今回の朝ドラ誘致の件を契機として、連携しての署名活動などのアシストもいただけると、水泳連盟関係の岐阜市議会議員のお話も頂戴しているところです。

以前、橋本・岐阜の両市長が会われた際には、歴史文化の都市交流といったことも話題に挙がっていますので、今後もお互い一層両市間の交流が進み、都市交流から姉妹都市へと

発展できればと考えています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

非常に前向きな答弁で、以上で一般質問を終わらせていただきますと申し上げてもいいんですけども、まだ時間もたくさんございますので、一つ、二つ、三つ、四つ、あるいは五つと、質問をさせていただきたいと思えます。

先ほど教育次長のほうからも、織田信長公の450プロジェクト、入城450年の話が出たと思うんですが、岐阜市はこう書いてますね。地域活性化、これはもちろん官民、地域活性化につなげようというところで始まったんですが、織田信長公の入城450年プロジェクト、これ、官民一体となってというふうに書いてるんですね。私も、行政用語がよくわからないんですが、官民連携と今おっしゃってましたね。官民連携。橋本創生総合戦略の中では、官民連携という言葉が使われていたというふうに思います。よくわからないので教えていただきたいんですが、この、岐阜で書かれている官民一体と官民連携はどのように違うのか。この官民連携というのであれば、今後、官としては、行政としては、どのようなアシストをしていくのか。このあたりを、もう少しお話ししていただけたらなというふうに思えます。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）一体と連携の違いということでございますけども、私どもは官民連携ということで、橋本総合戦略でもうたっています。

連携とは、団体同士が一つの目的のために、互いに連絡を取り合っ物事を進めていくと

いうことだと思います。一体も同じような、それを総合した言葉かなとは思いますが、特に本市ですけども、朝ドラ誘致については民間主導で、実行委員会が中心となって活動していただいておりますので、ただ、この活動自体は、本市のあくまで委託事業ということでやっていただいておりますので、そのことを考えれば、やっぱり官民が連携して取り組むのほうだとは思えます。答えになったかどうかわかりませんが、そういう考え方でございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）よくわからない、少しよくわかりませんでした。またチャンスがあれば、企画部長にお教えいただこうかなと思えます。

私がお尋ねしたいのは、官民連携、その、これからの内容、中身なんですね。先ほど教育長からもありましたけれども、名古屋市あるいは岐阜市と、これからやはり接点を持ちながら協力をしないと成功はあり得ないとおっしゃったと思うんですが、これ、民間の、今、委託の組織というふうにおっしゃいましたね、企画部長。確かに民間の組織なんですね。やはり限界があるんですね。岐阜は市会議員の皆さんが立ち上がっていただきました。名古屋はどうしますか。今、いろんなところからお声かけていただいておりますけれども、あるいは岐阜と役所関係とは、接点はどのようにしますか。

これは、民間組織でいくらこれをやっても、やはり限界があるんですね。官民連携とおっしゃいましたでしょう。このあたりは、今後どのように詰めていかれるのか。委託とおっしゃいまして、やはり役所関係、行政が立ち上がっていかないといけないという機会もあると思うんですが、そこはもう委員会に全てお任せしているのか。あるいは、これから

連携と言いながら、しっかりと行政も立ち上がっていただいて、岐阜、名古屋としっかりと調整をしていただく、そんなこともしていただけるのか。ここは非常に大事なポイントですので、お伺いしたいと思います。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）先ほども申しましたとおり、誘致活動につきましては、本市は実行委員会に委託している関係上、官民連携ということをしていくのは当然でございますし、市としても、全て実行委員会にお任せするのではなく、委託ということでございますので、市がやっぱり主体性を持ってやっていかなければならないと考えています。その関係でサポートもしていきたいと、かように思っております。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）坂口議員もご存じのこととは存じますが、現在の取り組みを若干お話しさせていただきます。

確かに、実行委員会という組織をさせていただいて、民間主導で署名活動ですとか、情報収集とかというところに当たっていただいておりますけれども、例えば、岐阜市、名古屋市、それから椋山女学園とか、水泳連盟とかというところの団体との、何て言うんですか、話の足がかりとか、そういったところの部分については市が主導していく。現在も市が主導していっているというふうには考えております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

では、これからも岐阜、名古屋との連携というのは非常に大事な接点になりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

一つ、ここで確認なんですけど、二つ目の項目、誘致組織の中で今後の課題と方向性、こ

れからお尋ねしていこうと思うんですが、和歌山県選出の衆参両議員、あるいは和歌山県知事、今後、この誘致活動が軌道に乗って、大きな手応えを感じる時、あるいは実際に誘致活動が成功して、これからPRしていかないといけない時、和歌山県知事であったり、衆参両議員、和歌山県選出の議員にもお力添えをいただかないといけない時が来ると思います。橋本市では朝ドラ誘致の、こういった活動をしているというような趣意書、あるいは活動報告書のようなものを、衆参両議員、和歌山県選出の全ての議員にお出しになっているのかどうかということ、ここで確認をさせていただきます。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えします。

既に昨年度中に全ての議員、また知事にも既にお話をしております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

全ての議員、和歌山1区、2区、3区、それから参議院議員お2人も、全てにお話しいただいているということで、大変安堵いたしました。これからはどうぞ連携をとっていただきますように、よろしくお願ひしたいと思います。

あと、お話の中で出ておりましたNHKとの折衝、市長もせんだって行っていただきまして、NHKの理事とお話をさせていただいたというふうに思うんですけれども、その際、NHK側としては、これまでスポ根物語はだめだというようなこともおっしゃっていたようなんですが、スポ根ということも視野に入れながら制作も可能だと、そういったところまでお話をさせていただいたということなんで

すけれども、市長がお見えになりましたので、せっかくだから手応え等、ここで進捗など、お話を伺っておりますので、スポ根はだめよ、スポ根はだめよと、3月議会でも私も申し上げていた関係で、そういったところのお話と、制作サイドではどのような手応えを感じていらっしゃるのか、差しさわりのない範囲で結構でございますので、お答えいただけたらと思います。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

井上理事とお話をさせていただきました。スポーツ根性だめでしょうと言いましたら、そんなことはありませんというような回答もいただいています。

感触的には、まだよくわかりません。これも石田議員のお世話で行ったものですから、やはり国会議員が一緒に行くというものなので、はっきりしたことはわからないと思います。

ただ、これからの活動で大切なことは、NHKに対して、どれぐらいの情報を上げていくかということだと思います。橋本市の情報についてはお渡しをしておりますし、坂口議員も持っていたというふうに聞いています。あとは岐阜市、名古屋市、あるいは椋山女学園の中で、どういう資料を持っていけるのか。署名を持っていったぐらいでは無理やなというふうに思っています。その中で、朝ドラというのは、そういう人間関係のエピソードであったり、やはり、一番のNHKの大前提は、視聴率がとれるかどうかということだというふうに思っています。

今後、しっかり連携をしながら、努力を重ねるしかないのかなというふうに思っています。ちょうど2020年が東京オリンピックの年

でありますので、そのときに取り上げてもらえるような、これから情報を収集して、やはり、どういう人間関係があったのかとか、前畑は二度頑張ったと言われるような、そういうところに対していかに情報を出して、うちのほうから持っていけるのか。

実際に、前畑秀子さんを取り上げたドラマというのは、名古屋放送局の方で作成された経緯もありますので、これからそういう連携をしっかりと深めながら、岐阜市の野田議員のところへも既にお邪魔をしておりますし、いろんなところで連携して、これから、感触というのはまだまだわかりませんし、もっともっと努力が必要やというふうに認識をしています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

市長自らNHKのほうまでお運びをいただきまして、本当に折衝をいただきまして、本当に感謝申し上げたいと思います。

ですので、聞くこともないと思うんですけども、朝ドラ誘致の実行委員会組織の中で、これは確認なんですけれども、市長はどのようなお立場でいらっしゃるのか。ここだけ少し、お話をさせていただいたらなというふうに思います。

せんだって岐阜の国会議員の方とお話をする機会がありまして、市長は自ら先頭に立っておやりいただいているんでしょうというふうなお話もございましたので、もちろんですと、そのようにお答えをしておきましたので、ただ、誘致組織の中で本当に何度もお運びいただいて、ごあいさつも頂戴しているんですが、そういった意味から、少しだけ確認をさせていただこうと思います。市長はどのようなお立場でいらっしゃるのか、よろしく願います。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

私が民間の皆さんに実行委員会をお願いしたというのは、まず、前畑秀子さんという偉業を顕彰するためには、行政でやれば型どおりのことしかできませんし、やはり、その中で市民の皆さんにも盛り上がっていただくということが大事です。

そして、生誕100年ということで、前畑秀子さん自身のことを知られている方が本当に限られてきているという中で、いかに早くその情報を集めるには、市民の皆さんの力を借りていくということが大事であり、私のマニフェストの中にもあるように、これは市民協働の一つの取り組みとしてやっていきたいというふうに思っています。

今後の活動については、市がやるべきことはやります。実行委員会ですることは実行委員会でする。そして、それを連携していくというふうにしていきます。

やはり、役割分担をはっきりさせて、行政主導でやるという部分と、民間主導でやるという部分があって当たり前なのかなというふうに思ってます。大事なポイントについて、実行委員会のほうから要請があって、ここの部分の折衝を岐阜市へ行ってください、名古屋市へ行ってください、椛山女学園へ行ってくださいというときは、市が前面になって出ていきます。

今段階は情報を収集したり、市民のムードを盛り上げていただく、そういうふうなところをまずやっていかないと、一番大切なことは、先ほど言いましたように情報収集やと思ってますし、岐阜市、名古屋市、椛山女学園との連携なんですね。前畑秀子さんというのは、15歳ぐらいまでしか橋本市にいてないん

です。残りの人生というのは、岐阜市、名古屋市が中心になっているということもありますので、そこをどうやって私どもはフォローしていくのか。やはり、民間と民間同士のつながりがあれば、そして、水泳協会と水泳協会のつながりがあれば、そういうふうな情報も自然と本当の声が、市民の声が聞こえてくるのかなという認識をしております。

市としてやるべき責任が出てきたら、そこはきちんと果たしますし、実行委員会は実行委員会として、何をするのかということをしつかりと決めていただいて、前へ進んでいただけたらなというふうに思います。企画部長が答弁したように、連携してしつかりとやっていきます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）市長、ありがとうございます。

官民連携という意味が、大変今よくわかりました。企画部長、後でご説明いただかなくても結構でございます。今のご答弁で十分に市長の気持ちも伝わってまいりましたし、官民連携、ここぞというときには立ち上がっていただき、そして、情報の共有化もしていただけるんだというふうに思います。

失礼ながら、答弁もれという言葉は使いたくないんですが、市長も後でお答えいただかなくても結構なんですが、誘致委員会の組織、ぜひ会長に就任をいただきまして、あるいは名誉顧問でも最高顧問でも、やはり市長がトップだというようなことを外部にしつかりとおわかりいただけるような、そんな形でぜひ、僕は会長がいいんじゃないかなと思うんですけども、ぜひ会長に就任していただいて、また市長にもお力添えをいただきたいなというふうに思いますが、よろしいですか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えします。

名誉会長とか、そういうものではいつでもお受けします。ただ、実行委員会が立ち上がって会長さんもおられる中で、そこに私がしゃしゃり出ていくというのは、何のための市民協働かということになりかねません。いくらでも先頭に立てというんやったら立ちます。一方、名誉会長か顧問ぐらいでしたら、いつでもならしていただきます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

今後の委員会関係の話は、これで終了させていたどうかと思うんですが、三つ目になりますね。姉妹都市提携の話なんですけど、きょうは岐阜の市会議員の皆さん、役所関係の皆さん、これ、三つ目の項目、多分注目して見ていると思うんですが、これ、非常にいいチャンスだと思いますね。確認の意味なんですけど、橋本市は国内での姉妹都市というのは、ほかにあるんでしょうか。

○議長（中本正人君）企画部長。

○企画部長（北山茂樹君）国内ではございません。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ご答弁の中では、今後、都市交流の中から時間をかけて醸成をしながら、機運を醸成しながら姉妹都市提携というふうなお話だったと思うんですが、ここ、今チャンスなんです。岐阜は再来年ですか、織田信長の入城450年、今、冒頭も申し上げましたように450プロジェクトが、今、大変盛り上がってますね。

それと、織田信長の嫡孫、向副にありますね。織田信長サミットというの、岐阜を中心やってるんですよ。これは時間をかけてというの結構だと思うんですが、「今でし

よ」という感じですね。今やらないとだめだと思うんですね。

細江市長も近々に、橋本市、本市にお越しになるというようにも聞いておりますので、細江市長がお見えになりましたら、嫡孫の墓碑のところにまでお連れして、ぜひ、少なくともその都市交流の中で、橋本市は織田サミット、織田信長サミットの一員に加わっていただいて、あそこを観光資源にしたいんですよ。そのためには、こういった織田信長のサミットに入れていただいて、できれば観光資源の開発につなげていきたい。都市交流も結構なんですけど、ここは「今でしょ」という感じで、今、ここは姉妹都市提携を結んだらどうかというふうに思います。

姉妹都市提携の条件としては、首長、両市長の提携書があって、それと複数の交流目的があって、それと議会の承認があれば、この三つの要件を充足すれば、姉妹都市提携がたしか結べ得るというふうに聞いているんですけども、ここは都市交流で時間をかけるよりも、姉妹都市という感じで、この機を逃す手はないと思うんですが、どなたかご答弁いただけますでしょうか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えします。

昨年、岐阜市へお邪魔したときにも、細江市長のほうから、一緒に協力してやってみましょうかというお話もいただいておりますし、また、織田信長のお話でも、一度橋本市へ行きますよという話も、メインは高野山ですけど、高野山へ行って橋本市のほうへも、織田信長の子孫のお墓があるということで、お話もさせていただいています。

現在、教育長のほうに、もともと前畑秀子で行ったのが、教育委員会の教育長とのお話



もありましたので、私は進めていったらええなと思ってますので、今後どういう条件があるのか、岐阜市と逆に一度話し合いを持たなくてはいけませんので、それはどちらかという教育委員会、教育長のほうで、お話も多少していただいてあるように聞いております。その中でこの機会に、相手方さえ良ければ結べたらなというふうに思っています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）私、本当に行政内のこと、よくわかりませんが、これ、教育委員会マターなんですかね。姉妹都市提携というのは。ぜひ、であれば教育長、何とか「今でしょ」という感じで、機を逃さず、岐阜市と姉妹都市提携を電光石火で結んでいただけるようなことをしていただけることはできないでしょうか。

教育長、突然指名しまして恐縮ですが、お答えいただけますか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）私も5月に、鶴飼いの解禁の日に岐阜市に行ってまいりまして、そちらの教育長と歴史と文化の友好都市ということで、できるだけそういう友好都市の関係を持ちたいんですということで、お話をさせていただきました。

当然、旧姓前畑、兵頭さん、前畑さん、それから秀信公、三法師さんのこともありますし、それから中将姫伝説、中将桜というのも岐阜市で有名な桜としてあります。そういう関係から言いますと、恐らく橋本市と岐阜市というのは、歴史的また文化的な友好都市宣言が結べる絶好の都市関係ではないかなと、私も思っておりますので、議員おただしのおり、できるだけ早く、そういう友好都市を結べるように努めてまいりたいと思っております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

できるだけ早くということですから、なぜできるだけ早くかと申し上げますと、あまり時間がないんですね。これから岐阜との署名活動も連携してやっていかないといけないんですが、これ、小さい項目4番目でお話をしようと思ってたんですが、あまり時間がないというのは、先日NHKのチーフプロデューサーと話をしまして、NHKの朝ドラが決定される、そのタイムスケジュールであったりとか、その内容を聞いてまいりました。ベールに包まれていた朝ドラ決定の、その内幕ですね。ここだけの話やから言わんといてねと言われてましたので、本会議場でユーチューブで流れている中で、この内容をお話をするわけにはいかないんですけども、もしご興味がありましたら、どうぞ会派室までお越しただければ、いくらでもお話を申し上げます。

結論から申し上げますと、時間がないんです。2019年の秋の放送、オリンピック前年の秋のスタートを放送開始ということターゲットに絞っておりますので、その半年前には既に撮影が開始されています。2019年の春には撮影が開始されている。そのさらに半年前には、もう既にマスコミを通じて、来年は、来年の秋、2019年はこの物語でやりますよということがプレスリリースされる。さらにその半年前に担当のプロデューサーが決まります。ということであれば、タイムスケジュールで申し上げますと2017年の年末、あるいは2018年の初春、このあたりが誘致活動のタイムリミットになります。

であれば、時間がありませんね。あとだいたい正味で2年少しですね。2年少しの間に当落、当たりか外れか、1等か2等かというようなところをNHK側に判断されるということになります。であれば、署名活動も我々

も当然ターゲットを絞って、2017年の年末までにコンプリートするように署名活動を行っていきます。

今、教育長がおっしゃいましたけれども、できるだけ早くというふうにおっしゃってましたけれども、できるだけ早くお願いします。なぜかという、今、岐阜市と姉妹都市提携を結ぶことによって、橋本市の市民、前畑秀子を知らない多くの方々が、なぜ岐阜市と橋本市は姉妹都市を結ぶんだということが、ここで鮮明に浮き上がってまいります。姉妹都市はなぜ結ぶのか。岐阜で多くを過ごされた前畑さんとゆかりのある橋本市。こういったところが、姉妹都市を結ぶことによって橋本市の皆さんに知っていただく。そうすることによって署名活動がさらに加速して、ご理解をいただいて、多くの皆さんにご賛同をいただけるというようなストーリーを考えております。できるだけ早くお願いをしたいと思います。三つ目の小さい項目は、お願いをして以上になります。

四つ目の、このフィルムコミッションの話を大々的にするつもりはないんですけれども、これ、通告書では、仮に誘致が実現したときのためにというふうに書いているんですけれども、これ、前にすることが大切なんですよ。せんだってNHKのチーフプロデューサーと話をしたときに、ストレートに聞きました。フィルムコミッションのある自治体と全くない自治体、全くそういったところに手薄なところと、選考的にはどうなのでしょうねというような話をしましたら、即答で返ってきました。もちろん、フィルムコミッションのあるところに決まってるじゃないですかと、こんな話がきました。

ですから、フィルムコミッションというのは、過去の経緯も私、お話を伺って知ってますよ。知ってますから、メリット・デメリッ

トも当然承知をしております。であれば、ここに書いてますでしょう。朝ドラ誘致室にターゲットを絞った、フィルムコミッションの役割を担う機能をオプションの下、朝ドラ誘致室を設置してはどうかというところなんですけれども、このご答弁が実現する場合、「実現する場合」、こういう文言でございます。実現する場合じゃないんですね。実現する前に旗を上げないとだめなんです。ここがポイントなんです。実現する前に橋本市の朝ドラ誘致室を掲げて、来ていただいたときには全面的にロケの支援をさせていただきますと旗を上げる。これが大切なんです、これ、どうでしょうね。

このあたりは、朝ドラ誘致室、これが適当な名前かどうかわかりませんが、要は、各課を越えた機能を持つ、朝ドラプロジェクトチームでも何でもいいですけれども、前畑チームでも何でもいいですけれども、各課の垣根を越えた、いわゆる機能を持った、そういったチームが立ち上がってほしいなと思うんですが、これ、経済部長、無理なんですかね。聞いていただきましたよね。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）先ほど市長のほうからも答弁あったんですけど、まず、NHKの朝ドラに限らず、全国各地でテレビドラマであったり、映画であったり、情報番組、私ともそうなんですけど、CMロケなんかのそういった誘致活動は、積極的にされている自治体が非常に多いのは確かです。

情報番組の誘致なんかは、実は私とこ、結構やらしていただいています。見られた方もあるかわからんですけど、先週の金曜日にも「和歌山新風土記」、これはテレビ和歌山やったんですけど、やどり温泉と国城広場、結構うまく表現していただけてました。それ以外にも、「遠くへ行きたい」で柴田理恵さんが食べた

はたごんぼ寿司がすごく有名になって、一躍商品が完売してなくなってしまう、そういう状況まで至っています。「ちちんぷいぷい」であったり、「よ〜い！ドン」であったり、「一志相伝」なんかも、これ、へら竿の関係で番組として取り上げられました。そのたびにいろいろ反響はあります。

私、フィルムコミッションの効果というのは、いくつか確かにあると思います。例えば、映像を見た人がロケ地に訪れたいという、そういう観光客が増える可能性は十分ありますし、地場産品とか店舗等が映像で紹介されたら、一気にその知名度が上がって、地域外での商品の消費が拡大する可能性もあると思います。何よりも、ロケなんかに、朝ドラで、例えば橋本がロケ地になったら、それにかかわる関係の事業者、宿泊施設であったり、飲食施設であったり、そういったところの経済効果というのはすごいと思います。

それと何よりも、最初の答弁にも、壇上の答弁で教育次長やったと思うんですが、あったんですけど、市民の人がいつも見慣れておる風景を、第三者の目から見ていただいて、魅力的に映像として映し出されることによって、地域住民が地域資源として、その魅力を再発見していけるとと思います。

そういったことから、議員の意見とは少し違うんですが、朝ドラ誘致がある程度確定してきた時点で、誘致実行委員会もありますし、それまでの間は、実行委員会で精いっぱい頑張ってまいりまして、ある程度確定した段階で支援のための実行委員会を立ち上げて、効果に結び付く取り組みを積極的にやっていく必要があるのではないかというふうに思います。

以上です。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます

た。

今、前向きなご答弁ずっといただいているので、もう終わってもいいんですけども、非常に大切なことなので、経済部長もこのようにおっしゃいましたましたね、今のご答弁で。ある程度確定した場合。それと、先ほどの企画部長のお話の中でも、実現可能性の時期にプロジェクトを立ち上げると。これ、実現可能性の時期とか、ある程度確定した場合とか、これはどのようにお考えになっているのか。先ほど、タイムスケジュール的なことも申し上げたんですけども、これはあくまでもNHKの内部でのお話なので、ある程度確定した場合に立ち上げるというのは、どのぐらいの時期を想定してらっしゃいますか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

基本的には、朝ドラ誘致の、その部屋をつくるというつもりはありません。これは、朝ドラのみに部屋をつくってというのは、非常に費用対効果を考えますと、結構大きいものにもなりますし、橋本市には古川勝さんもいらっしゃいますし、岡潔先生もおられますので、その中でどういうふうな、バランス的な問題もあるかと思えます。

先ほど、企画部長、プロジェクトチームをつくるというふうなお答えをしたと思うんですけども、そのプロジェクトチームについては考えていきます。その判断は私がします。今、地域包括ケアシステムのほうでも、福祉部にプロジェクトチームをつくることとしました。いきいき長寿課だけでは無理なので、福祉部挙げてやりなさいというふうなことにしています。

やはり、現在の業務量を考えますと、そこに専属で人を置けるほど、市に職員の余裕は

ありませんし、これは、教育委員会もそうですし、経済部もそうでしょうし、非常に、また地方創生になってきますと、より幅広い課と一緒にやらないと、理想的にはHMP橋本まちづくりプロジェクトのような、そういうふうな、僕はこれをやりたいんやというような職員が中心となって、プロジェクトチームをつくっていくことが大事だと思います。

最終的に、先ほど申しましたように、市がやるべきこと、プロジェクトチームがやるべきこと、やはり実行委員会もありますので、逆に、実行委員会をその室と考えるも私はいいのかなど。何が何でも行政が主導でやっていくという考え方は、ちょっとおかしいのかなど。今の、この実行委員会をつくってきた経緯を考えますと、どうかと思います。その中で、これから進めていく中で、私が判断をして、プロジェクトチームをつくっていくということになるかと思っています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

もう十分にご答弁をいただいているんですが、ちなみに、参考程度にちょっとお話を申し上げます。

せんだって、前武雄市長の樋渡さんの講演を聞きに行ったときに、佐賀のがばいばあちゃんの話が出ました。このときに、ロケ支援のためにメインロケ地となった佐賀県武雄市が、このテレビドラマの誘致であったりとか、あるいはロケ支援のために、「佐賀のがばいばあちゃん課」を設置したことがあります、このようなことをお話をされてきました。ここまでやるかというような感じで、やはり行政も、ここまでやる場所もあるということだけ、知っていただきたいなというふうに思います。

それと、もう一つ、ちょっと勘違いしない

でいただきたいのが、ぜひ人を置いて、中身のある、実のあるものを今から、先ほど申し上げましたけど、2017年の年末あるいは2018年の春までに、その誘致室を立ち上げて、人を置いていろんな作業をしてくださいとお願いしているんじゃないんですね。冒頭も申し上げましたように、旗を立ててください。これ、適当な言葉じゃないかもしれませんが、プリテンドです。プリテンド。ふりをするという意味です。これ、あまり良くないかもしれませんが、旗を上げたら、旗を上げるという言い方はあまり適切かどうかわかりませんが、外部から見て、橋本市は朝ドラ誘致をしたときにロケの支援をしていただけるんだなという、対NHKへの旗というふうに申し上げていいかもしれませんが、ぜひご検討いただきたいなと思います。そうしませんと、これから陳情に行くときに、本市は本気で朝ドラ誘致をしていますというようなことが、なかなか申し上げにくいかもしれませんね。

せんだって市長がお越しいただいたときに、NHKのほうにお越しいただいたときに、実行委員会からこういった参考資料をお持ちいただいていると思うんですね。その中の文面で、「今後は朝ドラ採択決定時に備え、ドラマのロケ収録の支援体制部署を設け、地元は万全を期する決意であります」と。このようなことを文書でNHK側にお話をしておりますので、実のある、中身のある、企業誘致室のような中に人を置いて、ずっと何か作業していただく、そんなつもりは毛頭ございません。のぼりを立てて、旗を上げて、あるいはホームページで、橋本市は朝ドラプロジェクトチームを立ち上げていますというようなプリテンドをしていただく。これ、適切かどうかわかりませんので、不適切であれば、また後でおわびを申し上げますけれども、プリ

テンドをして、何とか旗を上げていただけないかなというふうに思います。

ちなみに、せんだって事故がありましたね。NHKの真田丸が本格的にロケがスタートしまして、長野県でNHKの美術スタッフが屋根から転落するという事故がございました。地元、地の利にあまり慣れないNHKのスタッフがロケ地に乗り込んで作業をする。これはロケ班にとっても非常に不安なんです。手厚く地元はあらゆることをケアをするというようなことを言っていただけでも、ああ橋本市はロケ地にええなと思っていただく。これは、前畑秀子物語、その採用決定に向けて非常に大きな戦力になるというふうに思いますが、私だけしゃべっていても仕方がないので、今、このあたりはどうでしょう。プリテンドする、ふりをする、のぼりを立てていただくというのは、行政的に無理なんですかね。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

そういうプリテンドするだけならば、うちも人をつけてますよ。臨時職員を、その事務局として1人雇用してますから、その中でそれを部屋として対外的に言っていたでもいいんじゃないんですか。それは、やる以上、室をつくって、中身のないような部屋をつくって、そしたらNHKが評価してくれるかということです。だから、その中で、今言われるようなことであれば、既に専任の事務局長がおるわけですから、その中で、それを、うちはこういう体制でやっていますというふうに言っていたらいいのかなと思います。

私ら、そのロケ地の話をされてますけども、じゃあ橋本で、前畑秀子さんの、例えば紀の

川で水泳の練習をしていたというところがあるのか。紀の川というCDが出たときに、紀の川で実際は撮影せずに、四万十川みたいなところで撮影しているということもあります。だから、その中で本当に決まったときに、橋本市で撮影するということになれば、全面的に協力をするということです。

だから、うちはもう既に人も張り付けてますし、そういう中でやっているの、そういう見かけ倒しはあまり、行政の組織の中でありますというのであれば、ちょっと非常に問題があるのかなというふうに認識をしています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

大変勉強不足で、市長、申しわけございませんでした。なるほど、やはり実のない空っぽの室をつくるわけにはいきませんので、実行委員会の事務局長等には頑張っていて、せめてフィルムコミッションに近いような、またのぼりを、旗を立てていただければいいのかなというふうに思います。

一つ、今、市長がお話をされておりましたので、老婆心ながら付け加えさせていただきます。おっしゃるとおり、私も一番心配しているのが、もしロケが決まったときでも、撮影が決まったときでも、ロケ地があるのかどうかというふうに思います。

紀の川、今、本当に水量が不足してまして、仮に前畑秀子が紀の川で練習をしている風景が撮れるのかどうか。ここ、岐阜の市会議員の皆さんは言っていました。うちの岐阜の長良川使ってくださいと言っていました。そういうふうに持っていかれますと、大変不本意ですから、岐阜の長良川で紀の川はないやろうと思うんですけれども、今、4番議員がおっしゃってましたけども、高野口小学校、こ

こ、非常にロケ地にはうってつけですので、尋常高等小学校時代は、高野口小学校でせめて撮影をしていただきたいなというふうに思います。

ですから、紀の川でもし撮影が可能と、橋本で、もし撮影が可能ということであれば、高野口小学校だけでロケをするのもなんでもございますから、本当に紀の川でロケをしていただきたいんですね。そのためには、本当に奥の手と言いましょうか、水量を増やしてでも、紀の川の造成工事をしてでも、これ、えらい怒られるのかもしれませんが、そんなことをしてほしいなというふうに私は妄想しております。その撮影期間、数カ月だけでも、ダムの水量を調整して、いや、市長、私の妄想ですからお気になさらないで、そんなことも考えております。

NHKのチーフプロデューサーは言っていましたね。ある自治体は、時代風景、古い時代の風景を撮るときに、電柱がどうしても邪魔だった。電柱がどうしても邪魔だった。これ、CGでどうしても削除できなかった。その自

治体は電柱を引っこ抜いてくれたそうです。そんな自治体もあったそうなんですけれども、橋本市にそこまでやっていただきたいという願いはございませんので、何らかの形で橋本市にロケに来ていただける、そんな環境整備も、これから考えていただきたいなというふうに思います。

何回も申し上げます。時間がございません。前畑秀子朝ドラ誘致、もうあと2年、中身2年の中でやっていただかないといけないと思います。私も一般質問で、この前畑秀子を取り上げるのは、今回は最後にしたいと思います。ぜひ、官民連携という、この4文字を信じますので、ここ一番というときには行政のお力をぜひお借りして、2018年の春、市長室にNHKの会長あるいは理事から、朝ドラ決まりましたという吉報が必ず来ることをお祈りしながら、このあたりで一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の一般質問は終わりました。